

J-FEST in モスクワ 参加レポート

—J-Anime Meeting 代表として日本文化フェスティバルに参加して—

J-Anime Meeting 翻訳チーム所属
東京外国語大学言語文化学部ロシア語3年
堀 智香子

本レポートでは、11月26日（金）にロシア・モスクワ市内で開催されたイベント「J-FEST」に、J-Anime Meeting を代表して学生審査員として参加させていただいた経験をふまえ、その内容や感じたことについて詳細に報告する。また、そこから新たに学んだこと、今後の J-Anime Meeting や日露交流のあり方を考えるうえで活かせることについても考察していく。このフェスティバルは、モスクワでほぼ毎年開催されている「日本文化イベント」で、在ロシア日本国大使館も主催者の一つとなっている。モスクワに暮らすロシア人・日本人の双方に向けて、広義の「日本カルチャー」の魅力をアピールし、さらなる交流を促進するイベントである。

1. 会場のようす

フェスティバル自体のオープニングセレモニーは17:00~だったが、開始以前から多くの人で賑わっていた。メイン会場である大ホールだけでなく、ホワイエでもさまざまな出店やワークショップが開かれており、日本語がたくさん飛び交うなかで、まるで今だけ日本に戻ってきたかのような感覚を覚えた。日本のお菓子や飲み物を売っている店、日本の漫画やアニメグッズを販売する店のほか、日本食（おそらく餃子のようなもの）をその場で焼いて提供している店もあった。こうしたお店の多くはモスクワ在住の日本人、もしくは日系のロシア人によって営まれているようだった。ふつうモスクワでは、日本の商品は日本の2倍近くの値段で売られているが、ここでは日本とほとんど同じ値段で買うことができた。その他、日本航空モスクワ支社のブースでは、ロシア人向けの日本旅行誌やパンフレットが配布されているほか、実際のキャビンアテンダントの制服を試着、撮影できるコーナーもあった。

その後、17時にホールにてオープニングセレモニーが行われると、まず最初のイベントとして、日本に関する紹介ビデオが上映された。このビデオは約1時間にも及ぶ長編映像で、日本の伝統文化や慣習のほか、政治や災害、人々のふだんの暮らしのようすなど、さまざまな角度から日本を紹介した内容になっていた。なかには日本のごみ処理技術のしくみなど、日本に生まれ育った私たちにとっては少し意外に思えるような点にも

スポットが当てられており、日本を外から見るとこのような印象なのか、と新鮮な感覚を得ることができた。

その後、ロシア人パフォーマーたちによるお琴や尺八の演奏が行われ、カラオケコンテスト・コスプレコンテストに移行した。どちらのコンテストも非常にクオリティが高く、また選曲やコスプレキャラクターのチョイスに関してかなりマニアックなものが多い印象で、日本のアニメ・漫画文化がロシアでここまで浸透しているのかと驚かされた。

フェスティバルが行われているあいだ、ホールの席は常に7、8割埋まっており、そのほかホワイエにも多くの人がいたため、正確な人数は分からないが数百人~千人単位でたくさんの人が訪れていたのではないだろうか。いずれにしても、出演者、観客ともに大きな盛り上がりを見せていたように感じた。

2. 審査員やゲストなど、新たに出会い交流することのできた方々

自分以外の審査員には、在ロシア日本大使館公使の池上さんのほか、ロシアの通信社『スプートニク』で記者をされている徳山さん、日本航空モスクワ支社の原田さん、そしてモスクワ市内でさまざまな日本関連ショップ（日本風カラオケ、日本式の美容院など）を運営されている清水さんがいらっしやっていた。そのほか昨年度のカラオケコンテスト・コスプレコンテストの優勝者も審査員として参加されていた。みなさんご挨拶することができたほか、池上公使とは審査員席が隣だったこともあり色々とお話することができた。先日公使の前で行われた J-Anime のプレゼンテーションについても、とても興味深かったとのご感想をあらためて伺うことができた。

その後、コンテストの表彰式を経て、クロージングセレモニーの際に、池上公使がロシア語でご挨拶された。「カラオケ・コスプレ両コンテストの参加者のクオリティの高さに驚かされた。このような状況のなか、こうして大勢の方に来ていただけたことを大変嬉しく思っています。」という趣旨のスピーチを聴くことができた。

またそのほかにも、イベントを訪れていたロシア人たちと交流するなかで、偶然同じ J-Anime インターンに参加している学生と対面で会うことができたり、留学している大学の日本語クラブで知り合った学生と会うことができたりして、日露界隈の良い意味での世間の狭さ、人々の密接さを感じることもできた。

3. J-Anime Meeting の宣伝について

カラオケコンテスト冒頭とコスプレコンテスト冒頭の合計2回、審査員の紹介がロシア語で行われた。私はまず「東京外国語大学より、学生代表の審査員です。J-Anime Meeting というプロジェクトの代表として来てくれました。」と紹介され、続いて J-Anime Meeting の趣旨についても客席に向けて説明していただくことができた。ロシア語で「J-Anime Meeting とはいったい何でしょう？それは、日本とロシアの学生たちが

協力して、日本のアニメに字幕をつけて上映するという素晴らしいイベントです。明日から2日間、オンラインで開催されるそうなのでぜひ見てみてくださいね！」といった紹介を、簡潔に分かりやすく客席に向けてしていただいた。これを機にどれくらいの人に興味を持ってくれたかは分からないが、あの場にいた一人でも多くの人が私たちのサイトを訪れ、コンテンツを楽しんでくれていたらと思う。

4. J-FEST から学んだこと、J-Anime Meeting に生かせること

J-FEST は 17:00~22:00 という、比較的長丁場のイベントだったにもかかわらず、あまり冗長になることなく、見ている方も気疲れせずに楽しむことができた。もちろん対面イベント特有の、入退場自由のオープンな雰囲気や外の出店の存在も大きいだろうけれど、そのほかにもさまざまな工夫を感じることができた。

まず司会のロシア人の方々がとてもエネルギッシュでパワフルな話し方をされていて、息つく間もないような勢いのある進行だった。私はロシア語ネイティブではないのですべては理解できなかったが、随所に冗談やユーモア、コメディ的な要素を交えながらトークされていたのが印象的だった。こうした要素も、観客を飽きさせない大きな工夫だと感じた。また、イベント全体の司会者と、それとは別にコンテストなどセクション別の司会者を設けていたため、それによってセクションごとのメリハリがしっかりとついていて良かったと思う。

司会の力だけでなく、フェスティバル全体の構成、出し物の順番などにも工夫が見られた。目玉となるイベント（コンテストや大規模パフォーマンス）のあいだに、幕間のアントラクトのような感じで小規模な出し物をはさむことで、楽しみながらも息抜きもできる時間が生まれていたように感じる。個々のセクションの内容を充実させるだけでなく、それぞれのボリューム感を考慮した上でその順番を考えることの重要性を理解することができた。このような工夫は、私たちの J-Anime Meeting にも大きく活かすことができるのではないだろうか。

また、ここまで多くの人を集客できているということは、広報や PR に大きな工夫があるのだろうと思う。それについて公使などにお伺いできれば良かったけれど、当日はそこまで思い至らず機会を逃してしまったのが反省点である。

5. 最後に ―今後の日露文化交流において何が重要か―

今回のイベント参加を通じて、ロシアではこのような日本フェスティバルが頻繁に、かつ大規模に開かれていることが実感できた。一方で日本では、このようにロシアに親しむイベントはここまで大々的に開かれていないように感じる。ときおり在日ロシア大使館主催の交流イベントが開かれることもあるようだが、あまり知名度は高くない印象だ。またこの J-FEST のように、大使館と民間が一体となって盛り上げているイベントも多くないのではないだろうか。日本では、まだまだロシアという国に対してどこか遠

い国というイメージを持たれることが多いが、このように誰でも気軽に参加できる「ロシアフェス」のような大規模イベントがあれば、民間レベルからより深い交流を促すこともできるのではないだろうか。実は私自身も、日本で開かれているロシア関連のイベントをあまり知らなかったので、帰国したらぜひ訪れなければと思う。